

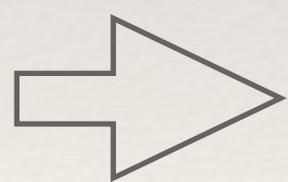
らぽーる新潟 ゆきよしクリニック 言語聴覚士 池浦一樹

EVERYDAY食べる会 活動報告

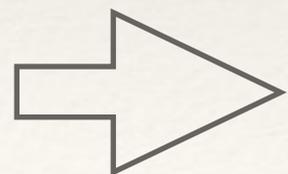
在宅の支援に移行する

在宅口腔ケア・摂食嚥下障害者支援の壁

1. 視覚的な壁
2. 連携の壁
3. 診断基準の壁



地域や在宅支援に関わる医療・福祉関係者に口腔ケア支援、摂食嚥下障害者支援を知ってもらいたい。



現場で働く支援者間の顔の見える関係性を構築したい。

“エブリデイ食べる。最期までおいしく，楽しく，幸せに。”

-EVERYDAY 食べる 会

会の概要

摂食嚥下障害者支援に従事する者，興味をもつ支援者などに声をかけ，在宅支援者間の交流を図り，新たな在宅支援の選択や実際の在宅連携に繋げる。

〈発足〉 2011年11月

〈開催頻度〉

- ・ 2ヶ月に1回程度会企画者による企画会議の実施
- ・ 年2回（開催月未定）の拡大した会を実施

〈会企画者〉

医師	: 2名
歯科医師	: 3名
介護支援専門員	: 1名
言語聴覚士	: 1名



〈拡大版の会の参加者〉

- ・ 医師
- ・ 介護支援専門員
- ・ 商工会委員
- ・ 医療ソーシャルワーカー
- ・ 歯科医師
- ・ 歯科衛生士
- ・ 理学療法士
- ・ 薬剤師
- ・ 報道各社
- ・ 言語聴覚士
- 等

企画者の望む会の活用

- ・ 「おいしく食べる」を支援する関係者の意見交換と相談窓口
- ・ 参加者による家族や地域へ向けた摂食嚥下障害や口腔ケアの理解に向けたの啓発活動
- ・ 食べられない, おいしく食べられない, またその人を支える家族の生活の質が向上する様な活動

具体的な活動

- ・ 歯科医師への往診の依頼や相談
- ・ 研修会, 研究会での啓発活動
- ・ 学会発表時の内容の伝達
- ・ 症例検討
- ・ 親睦会

歯科医師との連携例

- 担当者による在宅での食形態の検討
- 外来での嚥下造影の検討
- 在宅での嚥下内視鏡の検討



* 歯科往診の際、言語聴覚士と一緒に訪問し食形態の確認を行っている場面

口唇の潰瘍患者での連携例（歯科医師介入前）



口唇の潰瘍患者での連携例（歯科医師介入後）



潰瘍は良くなってきましたが...



新潟市歯科医師会 江南区・秋葉区 合同研修会での啓発活動



にいがた摂食嚥下サポート研究会にて

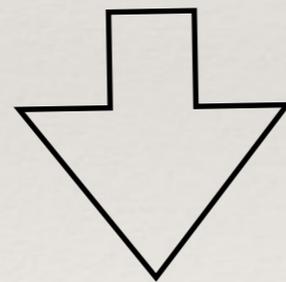


親睦会の様子



連携がとれるという事

- ・ より短期間で効果的な支援の実施
 - ・ リスクの軽減
 - ・ より質の高い支援の提供
-



在宅場面では連携を取る事が難しいのが現状

会を通して分かった問題点

- 支援者や家族の摂食嚥下障害に対する理解には温度差がある
 - 口腔内汚染に気がついておらず、誤嚥性肺炎発症など重症化した状態で重要性を理解する
 - 通所，入所リハビリにおいてリハビリの請求がまるめなため必要最低限の支援にとどまる場合がある
 - 介護保険では介護度により利用上限額があり支援が行き届かない場合がある
-

一方で...

- 支援体制の整った事業所が少ない

今後の課題

参加者の積極的な啓発活動

各地域へ

- ・ 住民へ
 - ・ 医療，福祉関係者へ
-

口腔ケア支援，摂食嚥下障害者支援

より積極的で適正な選択



「EVERYDAY 食べる」から「参加者の地域」へ